

令和6年度 大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

所属名	附属池田小学校
研究課題名	図画工作科美術鑑賞における国語科との教育的アプローチの比較研究
研究課題概要	<p>全国の784名の小学校教員を対象にした「小学校図画工作科における鑑賞学習指導についての全国調査報告」（2015年、日本美術教育学会研究チーム）の結果から、図画工作科指導全般の積極性は、92.6%であったのに対して、鑑賞学習指導の積極性についての回答割合は、43.2%であり、小学校教員の鑑賞学習指導に対する積極性が低いことが明らかになった。</p> <p>さらには、質問項目への回答後に設けられた自由記述欄には「鑑賞体験を言語化するプロセスに疑問を感じる。鑑賞の評価が難しい。」「『感想を書いて終わり』という鑑賞になる（指導法の研究が必要）。」「独立した鑑賞よりも、製作と連動した鑑賞の方が自然。」という主旨の記述が数多く見られた。これらは、申請者が自らの実践研究でも感じていたことであり、特に「教科横断的指導による『深い学び』の実現～『鳥獣戯画』を通した言語能力の育成～」（教育研究集録第27集、2021年、日本教育公務員弘済会大阪支部）の実践を通して、図画工作科鑑賞学習と国語科の重なる教育的アプローチ（児童の記述までに至る授業展開、児童に対する発問や声かけ）が多いことを実感した。</p> <p>上記の現状を踏まえて、本研究では図画工作科鑑賞領域において、鑑賞学習の授業展開・評価等の指導法が確立されていないことが、表現領域に対して小学校教員の指導の積極性が低い要因と考え、鑑賞学習指導法の確立を目指す。</p> <p>鑑賞学習は対話型が唯一の方法ではなく、発表のみが鑑賞への主体的な参加とも言えるわけではない。しかしワークシートなどの一人ひとりの記録資料がないと、評価が難しいことは確かである。鑑賞体験を言語化するプロセスに対しての問題は、国語科との差別化を明確に図ることで解決できると考えた。そこで、国語科との教育的なアプローチを比較し、図画工作科の独自性を浮かび上がらせる。具体的には、葛飾北斎作《神奈川沖浪裏》がある題材の図画工作科鑑賞学習と国語科の教育的アプローチ（児童の記述までに至る授業展開、発問や声かけ）を比較することで、図画工作科鑑賞学習の独自性を浮かび上がらせることにより、小学校の教員が取り組みやすい鑑賞学習指導法の確立を目指す。</p> <p>その結果、小学校教員の図画工作科鑑賞学習指導の積極性向上に寄与できると考える。</p>
研究課題の構成員 (リーダーに※)	※野網 学（池田小学校） 田中 俊弥（多文化教育系） 山本 良太（理数情報教育系）

※様式は頁数が増えても差し支えありません。